つながる

〝若者〟の思いをお届け
岩手県立大学 化粧ボランティアサークル「KIPU＊Labo」

岩手県立大学 化粧ボランティアサークル「KIPU＊Labo（キプラボ）」は、お年寄りたちに生き生きと暮らしを楽しんでもらいたいとの思いから、同大学社会福祉学部（以下、「社福学部」と表記）の学生らによって平成17年に設立され、現在19人が活動しています。サークル名は、化粧の頭文字の「K」と大学名の略称「IPU」をつなげ、高齢者の生き生きした生活を手助けするラボ（研究所）にしたいとの願いを表しています。

月に数回、地域の高齢者施設等を訪問し、化粧やネイルケア、ハンドマッサージを通して高齢者や障がい者との触れ合いを深めているほか、資生堂盛岡支社と連携し、化粧の施し方を身に付けたり、自分たちでオリジナルのハンドクリームを作るなどしています。新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年以降は、思うように活動ができませんでしたが、今年度から施設訪問等の外部活動も再開しています。

今回、メンバー4人に、活動への思いや今後の展望などをインタビューしてきました。

―サークルに加入したきっかけは？

●**三浦りん**さん（社福学部聴講生）

「ウエスト症候群という病気で重度の障がいがあるのですが、同年代と一緒に学びたくて、週に一回聴講生として授業を受けています。そこで仲良くなったお友達に〝化粧に興味ある？〟とキプラボに誘ってもらい、加入しました。普段は支援される側ですが、自分も誰かに何かを与えることができるということが喜びです。（りんさんのお母さんが代弁）」

●**阿部栞奈**さん（社福学部4年）

「オープンキャンパスにキプラボのブースがあり、そこでハンドマッサージに興味を持ったのがきっかけです。将来、高齢者施設で働きたいと考えているので、就職後、利用者さんにもハンドマッサージは喜んでもらえるだろうと思っています。」

●**大衡日向子**さん（社福学部3年）

「入学前に県立大学のサークルを調べていたところ、キプラボの活動を知り、合格したら加入したいと思っていました。私も、高齢者福祉に携わりたいと思っており、キプラボで得たスキルは、高齢者とのコミュニケーションの一つになると感じています。」

●**齋藤佑羽**さん（社福学部3年）

「そもそも美容に興味を持っていて、それをボランティアとしてできることに魅力を感じたのがきっかけです。」

―活動で苦労したことは？

コロナの期間が長かったため施設等の訪問ができなかったのですが、先日、認知症カフェにお邪魔して、実際にお年寄りの方と触れ合うことができました。ネイルをしてみませんか？と声をかけたのですが、「若くないから（やらない）」と断られてしまいました。どのように働きかけるべきか…と悩み、コミュニケーションの取り方の難しさを感じました。

―活動の中で嬉しかったことは？

昨年の大学祭で、キプラボでは、ハンドマッサージのほか、輪投げなど子どもも楽しめる縁日や、りんさんが作ったアクセサリーの販売を行ったところ、幅広い世代の方々が立ち寄ってくれて、その方々の笑顔を見ることができたのが嬉しかったです。

―今後の活動の展望は？

「化粧」というとどうしても女性のイメージが強いのですが、今後は、女性や高齢者、障がい者に限らず、幅広い世代に関心を持ってもらい、世代間交流につなげていきたいです。

高校等に出向いてハンドマッサージのやり方を教えるなどして、高校生等のつながりから自分たちの活動を普及させていけたらいいなと考えています。

また、今後、資生堂盛岡市支社と連携して、社会貢献につながる活動を考えていく予定です。

今回取材したメンバーの中の三浦りんさんは、視線の動きをマウスにして、パソコンで絵を描いています。りんさんの描いた絵を、お母さんやお友達がネックレスやヘアアクセサリー、バッグなどとてもオシャレな作品にしています。それらの作品は、岩手県立大学の向かいにある「PanTech（パンテック）」などのお店に商品としても並んでいます。